

会 報

No. 3



中部日本地質調査業協会


~~~~~ 目 次 ~~~~~

|                     |    |   |
|---------------------|----|---|
| ボ—リング隨根(1) .....    | 1  | 5 |
| (2) .....           | 2  | 5 |
| 単価改訂特別委員会 .....     | 7  |   |
| 単価改訂委員会卸会議事録 .....  | 10 |   |
| 第21回定期理事会議事録 .....  | 12 |   |
| 単価表改定委員会議事録概要 ..... | 14 |   |
| 第22回定期理事会議事録 .....  | 15 |   |
| 文 芸 ら ん .....       | 18 |   |
| 新春麻雀大会 .....        | 19 |   |
| 〃      成績表 .....    | 20 |   |
| 昭37年12月業績表 .....    | 22 |   |
| 昭38年1月業績表 .....     | 24 |   |
| 単価改訂合同委員会 .....     | 26 |   |
| 第23回定期理事会議事録 .....  | 27 |   |
| 昭38年2月業績表 .....     | 30 |   |
| 単価改訂合同編集会議録 .....   | 32 |   |
| 単価改訂編集会議録 .....     | 32 |   |
| 第24回定期理事会議事録 .....  | 33 |   |
| 〇〇〇〇川柳 .....        | 36 |   |



## ボーリング随想 (1)

45 藤 久 子

~~~~~ 前号より ~~~~~

そのボーリング班長は、その文位のまっ黒の元気のいい人であった。原始的な、恐らくは上総掘程度であったろうと思われるボーリング機械を、数人の人夫に運転させて (京) という自家調整のハッピをきて作業を指導していた。足もとには地下足袋に黒い脚絆はきがある。ある日、土木課長がその現場を見に行つて、隣町の技師達を叱つたものである。ボーリングは直営でやっていると云つていたのに何ぞ請負にしたのか、誰も監督もついていないではないか。とのことごとあった。隣町の技師は、いや薄います。之は直営です。現場の監督は、あの (京) のハッピを着ている者です、あれは京の吏員で請負人ではありません。と弁解したものであった。

このボーリング班長は、まことに好人物と酒がすきで、宴会でもあると大いに酔つて、元気のいい何とか踊りをやつたものである。この人は仕事に熱心で、気候のいいときは現場にテントを張つて自炊生活をやっていた。そしてあまり返へ帰えりたがらなかつた。ジプシーのような生活、行雲流水を反として十年一日の如く土を掘つたあの老人の人となりか、流れ去つた幾星霜に決い郁鬱を感ぜさせる。

ボーリング随想(2)

佐藤久保

筆執ればもの書かれ云々、とは徒然草にある兼好法師のことばであるが、詩情に乏しい私には、筆を執っても書きしるす事柄に窮する。

事務局の加藤君から3月10日が×切であるから、之に間にあわせよう、との催促は、何かしら室付が有にかゝったようぞ、あますところ五指に満たない取手、責任と業務？とてしめつけられたような気持の毎日である。

随想、とは、想い出るままを、筆に開かせば足ることながら、迂曲にもボーリングの字をつけたので、無軌道な筆の走りも許されない。ボーリングを業としながらも、頭上浮ぶことは、呼吸なき私業的な意識が先に立って、自分ながら情ない、静かに自分をみつめると、機械的に幾丈を越してきたあいだに、人間性の影がうすれていくことに気がつかないではいられない。之は筆者の年令のせいであろうか。

ロマンチズムのはなやかであった大正の世代に多感な愛を抱いて、先師に訓えられたことは、失う人間を作れ、と云うことであった。

深遠なる学識も、優美なる技術も、完成された人間と云う器に盛られてこそ、その光と力をあらわすであろう。

会の事務所へ所用があつて行く度に、若い会員の諸兄にお目にかかる、いずれも立派な青年である。肉体的には云うまでもないことな

がら、技術、私人的な意見を談笑の程にうかがって尚ほ親しい気持ちをする。話題の多くは、勢い仕事にふれるのは己むを得ないことではあるが、職業とズラバールのかげからチラチラときらのく人同様にふれて楽しくなることは、あながち私一人の感傷のせいのみであろうか。

みづから招いた当然の結果と云えばそれまでいはあるが、第一次世界大戦に敗戦の憂さ目にあつて、孤島の日本に籠らされていた帝国主義の壁は一たまりもなく潰れ去つて、東面から押し寄せた勢は、政治経済は云うに及ばず、社会構造から、個人の生活まで一変してしまつて、何事でも過去を思い、語ることは古いとされがちである。今日及び明日を考え、論ずることが急務で、廻し方を振り返るいとまがないというのであろうか。

科学も技術も戦前のそれと比べると一変してしまつた感じである。そして又明日はどんなに変化してゆくであろうか、ちつともうかうかとしていられないようである。

東海道線の車窓から新幹線の工事場を見ると、コンクリートの構造物が目につく。私たちがかつて経行したコンクリート構造物にくらべて、非常に手軽にできている。戦前では、コンクリート構造物は重く耐圧的な部分に最も多く利用されたものであつたが、この頃に見るものは張力に対しても平気で使われている。

中味の鉄筋も当時の二倍以上の強度があるそうである。それに加えて P.S コンクリート等というしろものまでできて、荷重を受ける

と抑つてストレスが減つて楽になると云うに至つては、全く今昔の感なきを得ない。

橋梁を設計して、掘つてみなければ、基礎の安定が判らないと云つた時代は去つて、先づ掘つてみる時代になった。おかげでボーリング業界も繁栄しているのであるが、掘らなくても判るようになるのではないであらうか。

理論物理学の発達と原子科学の進歩は原子力による土の密度や湿度を測定し得るに至つた。又ラジオアイソトープは困難とされていた地下水の調査において、^{*}流向、^{*}流量、^{*}水質、まづも正確に測定し得るようである。

このような大きな波が打ち寄せているとき、私どもは土のみを掘つていて、いゝものであらうか。人間の思考の世界に実証主義哲学が存在する限りは之でもいゝであらうが、掘ることを業とする私ども自体のうちにもこのような杞憂が生れると云うのはどうしたことであらう。このことが取越苦勞となれば幸い？としておきたい。

大正の末期、秘島が大爆発したときのこと。東大の大森洪太郎土は噴火の実状調査に赴かれた事柄から噴煙を見て、最早今回の爆発は危険期を去つた、と断言された。ときいて、学問の力に驚異の眼をみはつたものである。

としてこの感銘は、学怒を業立つ私ども青春の血に燃える者にとつて、社会に出ても莫醒への探求こそは永劫に続けたいとの希望を抱かせたものであつた。

技術は科学に直結する。科学の進歩するところ技術の発達も必然である。土質力学の発達もボーリングを今日の繁栄に引きあげて来た。岩石力学の息吹きも、今漸くその声をきくに刮つてゐる。そして又、ボーリングは岩石についても、力学的解析の要務の一翼をになわなければならない。ボーリング業界はまことに多事多難である。

昭和7年、山口昇博士は、日本を始めて、土性力学の著書を書き、その中に、土性力学が未だ充分に実用化されないのは、土性の実験や実験の設計が、完全に統一せられた組織の下に統括せられて行われていないためである。従つて是等の実験の統一と云ふことは、理論的研究にも増して、現下の土性力学上重大なる問題であると言する。と云われている。

博士がどうしてこのようなことを云われたのか、当時の私には判らないことであつたが、今にして想えば、その至言なるに氣がついて偉大なる先覚への恩慕の情を禁ずることはできない。

昭和27年の夏、テルザギ教授の土質力学が輸入せられて、土質試験万能の現状を招来するに反んだ土性力学の現段階をみて、博士も満足しておられるであらう。私もボーリング業者も亦、その余蘊に浴するものと云わなければならない。

岩石力学とは、英国、土木工学研究所員レイノルド氏によれば、軟弱なる岩石の土木工学的研究である。岩を削つて法を作り、隧道を掘り、或いは各種の建築物を岩盤上に築造するにしても、一概に岩石だから安全とは云い得ない。岩盤を組成する基岩の性質、結晶、節理、

風化、地質構造等、地質学的に見た解析がなされなければならない。
これらの検討は、土質力学の範疇を出るものである。この分野につ
いては、なお、今後の研究と発展にまつことが多い。私たちボーリ
ング業者は、岩石のコアを採取するにあたり、採取した資料が、
前記目的に沿うように如何なるサンプリングをするのが適当である
かを考えてみる必要が残されているのではないであろうか。こゝで
も亦、多くの問題に逢着するようである。

由來、隨筆なるものは、定みに浮ぶうたかたの目つ消え、且つ
結びて流れゆくまゝに筆を走らせれば足るものと承知しながらも思
ひぬ深淵に流れこんだものである。

隨想もなかなか衆ではない。

人は、私業の為に生き、私業のために苦しむものだ、私業なく
して生はない。天才をもつてたつ芸術家においてさえも、同じこ
とが云えるのではないであろうか。

近代文化の悲哀をそこに見出さずにはいられない。然しながら、
苦しみも亦楽しみである。物云ひぬ自然を相手に黙々と地球を掘る
私たちは、語れども答えぬ土を相手に苦樂の双方に想をさせて明日
も又元気に土を掘ろうではないか。

— 終 —

(筆者は(株)中印ウエルボーリング社取締役社長)
中印日本地質調査業協会理事長

単価改定特別委員会

37~9~13. 15時

出席者 富士、土興、施用、川崎、興亜、中興の6社

開口一番お約束の原稿を催促しました。

施用さんの再版せられた調書を中心に検討する事にした。

すべて計算基礎となる使用材料の価格が購入価格と下廻る根があった。

一部ダイヤビット関係の価格を掲ぐ。

サイズは、46-56-66-86φとする。

46φ W コア チューブ 1,500^{mm} @ 17,950- (マイカイ商事)

56 " " 25,250-

66 " " 28,080-

86 " " 37,640-

ダイヤビット 46φ x 12C @ 37,300.-

" 56 x 20C " 60,500.-

" 66 x 22C " 67,900-

" 86 x 35C " 109,000.-

ダイヤビット用

W コア チューブ 46φ x 5C " 29,200.-

" 56φ x 6C " 35,000.-

" 66φ x 6C " 37,400.-

" 86φ x 9C " 54,000.-

本改定に要する日程、 年内完成を目標として

| | | |
|-----|----|---------------------|
| 9月 | 2回 | } = 6回 2時～6時 系完了する。 |
| 10月 | " | |
| 11月 | " | |

大体上記日程で小委員会は随時委員会の申込みにて協会と周知小委員会の原案を10-10（水曜日）に持ち寄り全案討議を決定する。

改定を目的とする要点は、

著しい訂正箇所としては採算方式に変わりはなく値上りした材料又は労務費が改定されるに伴って何れも数字を据置き替えるものである。

特に岩盤の部に採算方式の説明をつける軟弱地盤の部を設定する。

単価表等は全国一本で連合会を出刷して地域毎に地域差の説明書を付けて発行すべきだとの発言もあった。

既単価表を中心として、

- ①¹²⁻² 第2表の詳細を付ける。
- ② 第3表は第2表程度とする。
- ② 備考について3.4の%の表現を少し上寸に意図表示せよ。
- ③ 1-2特殊地盤調査ボーリング第4表全面抹消する。
- ④ 1-3岩盤ボーリング第5表は前回の富士提出の原稿を再

検討したものによる。

原位置試験

- ⑪ 第 12 表 第 13 表の諸至費を抜いたらどうか。

その他の原位置試験

- ⑫ 第 14 表は植紋の基礎数字の騰費により数字の変更のみぞよい。

- ⑬ 肥場揚水試験については全面的に注訳を詳細につかよ。

改定部門の担当者

| | |
|---------|-------|
| 軟弱ボーリング | 赤用、川崎 |
| 岩盤ボーリング | 富士、中肉 |
| 土質試験 | 土築 |
| 現地試験 | 興垂 |

全国的に組形様式を変更する。

例えば、

延繋項目は揃える

軟弱地盤の部に続いて

現地試験

土質試験 をならべるという組形とする。

人件費

材料費の価格検討が、そもそもの基幹である。

人夫 1,000.-

倉夫 1,200.-

助手 1,300.-

技手 1,500.-

~~~~~ 18時散会した。~~~~~

## 単価改定委員会部会議事録

(岩盤ボーリング部会)

37-11-13 13時

委員 中央岩盤(田村) 富士岩盤(青山)

青山委員より開口一番どの面より眺めて再検討するのか、この点が根本的となるから実施面に於ての捨い方を打合せたい、今日この単価表は、どの面に於て概算されて出来たものか、とのことでした。

それについて、37-9-3日に開催された時の経緯を呉さに甲上げて、昨年の概算にて出来た既単価どあり、その後の時間的ズレによる表中の数字に正確を欠くものがあるから今日の労賃、材料費の上に立って概算して、この表と比較検討し納得の出来る線迄改定するのが本望である。



青山、田村両委員は、 ついては、その点で一審のウエイトをなす  
人件費に対して基本数字を提示せよと云われ、川崎ボーリング小島  
委員に下記の通り承る。

|       |         |     |        |
|-------|---------|-----|--------|
| 顧問 技師 | 10,000. | 技 師 | 2,300. |
| 技 師 長 | 6,000.  | 助 手 | 1,700. |
| 主任 技師 | 4,300.  | 人 夫 | 1,000. |
| 技 師   | 3,200.  | 高 夫 | 1,200. |
| 技 師 補 | 2,300   |     |        |

即刻、上記に従い概算を始めた。 なお、種々疑問点が出来たので  
3月7-9-3の議事録を再確認して検討方法を変更した。

それについては、材料その他各種価格の再検討した。

岩盤ボーリングといえどもメタルクラウンの実態も併記した方が各  
方面のお客様の側より検討された場合を対象として算出する事にした。

人件費、材料費、機械損料、2P-節 その他（セメント記録等）  
この単価に対しては諸経費の組込みはしない事とした。

旅費、日当（宿泊費）値上げを認めるかどうか再確認せよ）エンジ  
ンの燃料消費料について正確に局長が調査する事とした。

燃料消費料 （松岡産業ディーゼル代理店提供）

7/24P ディーゼルエンジン 1.72/H とする。



## 単価表改定委員会議事録 概要

日 時 37-12-26

場 所 協会事務所

本管川工事下流事務所工事と兼ねて13時の予定

出席者 応用、川崎、土算、富士、豊垂、中岡さん欠席する。

14時開始する。

へき委員代表と川崎さんが、今後の進め方について 38-1  
月中に原稿を、同時に2月中臨時評事会を開いて協議し2月中に  
印刷に廻し、3月中に頒布の予定。

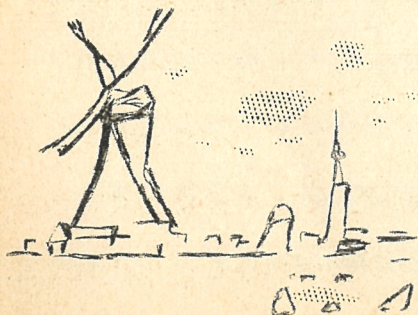
各自分担部門については、

各部門専門部会 1/20 - 1/10 とする。

編集部会委員（富士、応用、川崎）

編集部会 2/10 - 2/25 に用き全面的に終了

関西協会より新単価表が送付されましたので、各委員に発表した。





# 感謝状

中央肉産株式会社名古屋営業所

所長代理 佐藤隆也 殿

貴殿は、当協会理事として一年有余、その間協会の為尽力せられ業界発展に寄与するところ大なるものがありますので、ここに記念品を贈り感謝の意を表します。

昭和三十八年一月 日

中部日本地質調査業協会

理事長 佐藤 久松

感謝状並に記念品の贈呈

この度中央肉産株式会社名古屋営業所、所長代理、佐藤隆也殿が同社仙台営業所へ出張に対し、



# 文

玄関に吹雪を入れて配達夫  
瘦しゆきたり冷えし書留

父死にしその側に子等の居て  
漫画の本に就みかけり居り

キヤンバスを裂く音に似て殺しけれ  
吹雪の夜をなる山越しの送電線

久々に訪うなつかしき牧庭の  
紅白の梅蹴い眠きおり

人と想い涙ぐみつゝ歩む街  
白梅の如き雪が降り居る

銀子

格郎

てる

俤子

智恵子





## 新春麻雀大会

新春リフレッシュ行幸として、下記により新春麻雀大会と銘打って開催致しました。

### 記

1. 日 時 1月26日 / 3時 (日曜日)

1. 会 場 かもめお座敷麻雀荘

1. 賞 品 優勝旗と副賞品

準優勝トロフィーと副賞品

以下 / 〇等賞品

(優勝旗並にトロフィーは持ち回り)

当日は天気快晴申分なき日曜日、事務局側の心使いを察してか定時には凡卓満員の盛況 (因に予定は / / 卓とした、石も過去に於ては8卓がレコードです。)

イヤー、ヨー、と何れも知人同志の懐しさ全員席を抽籤にて定め、 / 3時戦端は開かれたり、

会場狭しと万卓の戦者に紫雲がたちこめたる中ど互に激しい戦意と燃し静かにお得意の冗談もなき裡に火花を散らした様な雰囲気とでも申しますが、 / 回戦、2回戦と各自得点も変転を極めて進み粗食を差し上げて最終戦へ突入しました。 / 9時戦火も納り別表の如



く勝者に賞状並に賞品と金賞柏手の程に授与され閉会となりました。

## 新春麻雀大会成績表

| No. | 所 属        | 姓 名 | 1 回 戦       | 順 位 | 2 回 戦       | 計           | 順 位 | 3 回 戦       | 計           | 順 位 |
|-----|------------|-----|-------------|-----|-------------|-------------|-----|-------------|-------------|-----|
| 1   | 村木養泉       | 若 杉 | ⊖<br>8,100  | 27  | ⊕<br>4,300  | ⊖<br>3,800  | 21  | ⊖<br>2,000  | ⊖<br>5,800  |     |
| 2   | 中央開苑       | 片 岡 | ⊖<br>1,300  | 21  | ⊖<br>28,500 | ⊖<br>29,800 | 32  | ⊖<br>6,000  | ⊖<br>35,800 |     |
| 3   | 日本開苑       | 鈴 木 | ⊕<br>9,300  | 9   | ⊕<br>9,600  | ⊕<br>18,900 | 8   | ⊕<br>25,200 | ⊕<br>44,100 | 4   |
| 4   | 東洋地銀       | 鈴 木 | ⊕<br>100    | 19  | ⊖<br>16,500 | ⊖<br>16,400 | 27  | ⊖<br>34,700 | ⊖<br>61,100 |     |
| 5   | 日本開苑       | 大 谷 | ⊕<br>2,200  | 15  | ⊖<br>9,900  | ⊖<br>7,700  | 22  | ⊖<br>23,800 | ⊖<br>31,500 |     |
| 9   | 村木養泉       | 村 木 | ⊕<br>6,100  | 13  | ⊕<br>22,700 | ⊕<br>28,800 | 6   | ⊖<br>43,000 | ⊖<br>14,200 |     |
| 11  | 日本開苑       | 箱 光 | ⊖<br>33,600 | 34  | ⊕<br>11,000 | ⊖<br>22,600 | 29  | ⊖<br>14,300 | ⊖<br>36,900 |     |
| 12  | 明治建設       | 石 川 | ⊕<br>17,300 | 6   | ⊖<br>27,100 | ⊖<br>9,800  | 24  | ⊕<br>17,500 | ⊕<br>7,700  |     |
| 14  | 村木養泉       | 竹 内 | ⊕<br>8,900  | 11  | ⊖<br>19,200 | ⊖<br>10,300 | 25  | ⊕<br>200    | ⊖<br>10,100 |     |
| 16  | 日本養泉       | 佐 野 | ⊕<br>9,100  | 10  | ⊕<br>15,800 | ⊕<br>24,900 | 7   | ⊕<br>6,600  | ⊕<br>31,500 | 8   |
| 17  | 川崎<br>木-リン | 多 田 | ⊖<br>35,300 | 35  | ⊖<br>7,300  | ⊖<br>42,600 | 34  | ⊖<br>21,400 | ⊖<br>64,000 |     |
| 18  | 富士開苑       | 松 井 | ⊖<br>37,600 | 36  | ⊖<br>1,000  | ⊖<br>38,600 | 33  | ⊕<br>47,500 | ⊕<br>8,900  | 13  |
| 20  | 日本開苑       | 南 雲 | ⊕<br>20,000 | 4   | ⊖<br>7,400  | ⊕<br>12,600 | 13  | ⊕<br>12,400 | ⊕<br>25,000 | 9   |
| 21  | 富士開苑       | 加 藤 | ⊖<br>24,100 | 33  | ⊖<br>2,700  | ⊖<br>26,800 | 31  | ⊕<br>31,800 | ⊕<br>5,000  | 17  |
| 23  | 井田本店       | 伊 藤 | ⊕<br>41,700 | 1   | ⊕<br>6,300  | ⊕<br>48,000 | 1   | ⊕<br>22,600 | ⊕<br>70,600 | 1   |
| 24  | 中央開苑       | 若 田 | ⊖<br>12,700 | 30  | ⊖<br>39,400 | ⊖<br>52,100 | 36  | ⊖<br>25,000 | ⊖<br>77,100 |     |
| 25  | "          | 佐 藤 | ⊕<br>12,400 | 7   | ⊕<br>4,400  | ⊕<br>16,800 | 9   | ⊕<br>35,600 | ⊕<br>52,400 | 2   |
| 27  | 富士開苑       | 伊 藤 | ⊕<br>2,300  | 14  | ⊖<br>3,200  | ⊖<br>900    | 20  | ⊖<br>5,400  | ⊖<br>6,300  |     |



| 順位 | 所 属         | 姓 名 | 1 回 戦       | 順 位 | 2 回 戦       | 計           | 順 位 | 3 回 戦       | 計           | 順 位 |
|----|-------------|-----|-------------|-----|-------------|-------------|-----|-------------|-------------|-----|
| した | 川崎<br>ホーリング | 三 浦 | ⊖<br>2,000  | 25  | ⊕<br>15,400 | ⊕<br>13,400 | 12  | ⊖<br>11,600 | ⊕<br>1,800  | 19  |
|    | 井隆本店        | 山 田 | ⊖<br>200    | 20  | ⊖<br>24,300 | ⊖<br>24,500 | 30  | ⊖<br>11,500 | ⊖<br>36,000 |     |
|    | 中央興発        | 石 上 | ⊕<br>800    | 16  | ⊖<br>9,600  | ⊖<br>8,800  | 23  | ⊕<br>8,300  | ⊖<br>500    |     |
| 順位 | 村木養泉        | 中 原 | ⊖<br>1,400  | 23  | ⊖<br>11,000 | ⊖<br>12,400 | 26  | ⊕<br>300    | ⊖<br>12,100 |     |
|    | "           | 水 至 | ⊕<br>800    | 17  | ⊕<br>3,600  | ⊕<br>4,400  | 17  | ⊕<br>27,300 | ⊕<br>31,700 | 7   |
|    | 明治建設        | 横 山 | ⊖<br>9,500  | 28  | ⊖<br>39,800 | ⊖<br>49,300 | 35  | ⊖<br>1,100  | ⊖<br>50,400 |     |
| 4  | 井戸屋本店       | 伊 勢 | ⊖<br>1,300  | 22  | ⊕<br>2,800  | ⊕<br>1,500  | 18  | ⊖<br>28,000 | ⊖<br>26,500 |     |
|    | 村木養泉        | 中 島 | ⊕<br>24,300 | 3   | ⊕<br>10,900 | ⊕<br>35,200 | 4   | ⊕<br>7,000  | ⊕<br>42,200 | 6   |
|    | 吉川建設        | 今 茂 | ⊖<br>12,500 | 31  | ⊖<br>5,700  | ⊖<br>19,200 | 28  | ⊕<br>34,000 | ⊕<br>15,000 | 10  |
|    | 川崎<br>ホーリング | 谷 口 | ⊖<br>18,500 | 32  | ⊕<br>26,700 | ⊕<br>8,200  | 16  | ⊕<br>6,600  | ⊕<br>14,800 | 11  |
|    | 大衆聖徳        | 大 塚 | ⊖<br>6,200  | 26  | ⊕<br>20,100 | ⊕<br>13,900 | 11  | ⊖<br>16,500 | ⊖<br>2,600  |     |
|    | 中央興発        | 松 井 | ⊕<br>6,800  | 12  | ⊖<br>6,200  | ⊕<br>600    | 19  | ⊕<br>6,100  | ⊕<br>6,700  | 16  |
|    | "           | 田 村 | ⊕<br>12,900 | 5   | ⊕<br>16,400 | ⊕<br>34,300 | 5   | ⊕<br>11,200 | ⊕<br>45,500 | 3   |
| 8  | 青葉工業        | 三 井 | ⊖<br>7,500  | 29  | ⊕<br>18,000 | ⊕<br>10,500 | 15  | ⊖<br>800    | ⊕<br>9,700  | 12  |
|    | 中央興発        | 佐 藤 | ⊕<br>4,800  | 8   | ⊕<br>6,300  | ⊕<br>11,100 | 14  | ⊖<br>18,200 | ⊖<br>7,100  |     |
| 13 | 興亜興発        | 刈 谷 | ⊕<br>2,600  | 18  | ⊕<br>37,200 | ⊕<br>39,800 | 2   | ⊖<br>36,800 | ⊕<br>3,000  | 18  |
| 9  | 中央興発        | 宮 本 | ⊕<br>100    | 24  | ⊕<br>36,700 | ⊕<br>36,800 | 3   | ⊕<br>7,200  | ⊕<br>44,000 | 5   |
| 17 | 村木養泉        | 近 藤 | ⊕<br>25,300 | 2   | ⊖<br>9,800  | ⊕<br>15,500 | 10  | ⊖<br>7,500  | ⊕<br>8,000  | 14  |
| 1  |             |     |             |     |             |             |     |             |             |     |
| 2  |             |     |             |     |             |             |     |             |             |     |



昭和37年12月業績表

| 月 日  | 発 注 先            | 工 事 名           |
|------|------------------|-----------------|
| 12-1 | 国鉄岐阜工務局          | 岡多線岡崎聖田間地質調査    |
| 3    | 名古屋港管理組合         | 港内地質調査工事        |
| 4    | 運輸省伊勢湾港湾建設部      | 四日市港高汐防波堤地質調査工事 |
| 5    | 日本道路公団高速道路名古屋建設局 | 東名高速道路上郷音砌地質調査  |
| 4    | 名古屋郵政局           | 名古屋北郵便局地質調査     |
| 4    | 建設省名古屋国道工事事務所    | イロハ町地質調査        |
| 10   | 景 工業課            | 窯業地下資源地質調査      |
| 4    | 中部地建営繕課          | 名古屋覆地事務局庁舎地質調査  |
| 15   | 東海電気通信局          | 静岡電報局揚水試験工事     |
| 14   | 運輸省伊勢湾港湾建設部      | 名古屋港柏永第一埠頭地質調査  |
| 17   | 景衣浦港務所           | 特別会計埋立事業5号地の6   |
| 4    | "                | " 5号地の7         |
| 4    | 中部地建営繕課          | 名古屋簡易裁判所地質調査    |
| 19   | 名古屋港管理組合         | 13号地その一他地質調査工事  |
| 22   | 名古屋郵政局           | 名古屋通信病院地質調査     |
| 24   | 国鉄岐阜工務局          | 北陸本線金津中ノ谷間地質調査  |
| 27   | 木曽川下流工事事務所       | 加路宇保旧堤オーガーボーリング |
| "    | 東海電気通信局          | 西春電報局地質調査       |



事

| 指 名 業 者                                 | 備 考       |
|-----------------------------------------|-----------|
| 応用、川崎、興亜、中興、大栄                          | 中興周発      |
| 富士、大栄、土質、白用、菅                           | 富士周発      |
| 大栄、興亜、白用、川崎、土質、中部、中興、<br>応用、東京、東亜、白東、技研 | 中部ツエル     |
| 菅、川崎、土質                                 | 土質調査      |
| 東京、川崎、応用                                | 東京ボーリング   |
| 川崎、応用、土質、明治、中興、白東                       | 明治        |
| 青森、富士、帝国、川崎、東海、中京                       | 帝国        |
| 中興、川崎、菅、土質、大栄、東海                        | 川崎        |
| 東京、中興、興亜                                | 東京        |
| 大栄、興亜、白用、川崎、土質、中部、中興、<br>応用、東京、東亜、白東、技研 | 日本周発      |
| 富士、東京、応用、川崎、土質、中興、近畿                    | 応用        |
| 〃                                       | 中興周発      |
| 川崎、応用、大栄、東海                             | 川崎        |
| 富士、大栄、東建、菅、興亜                           | 大栄        |
| 中興、応用、土質、中京                             | 応用        |
| 大栄、中興、応用、土質、興亜                          | 大栄        |
| 土質、興亜、東海                                | 土質        |
| 川崎、堀谷、東京コンサルタンツ                         | 東京コンサルタンツ |



| 月 日   | 発 注 先          | 工 事 名          |
|-------|----------------|----------------|
| 12-25 | 名古屋郵政局         | 尾西郵便局地質調査      |
| 24    | 日本道路公団高速名古屋建設局 | 名神高速道路小牧地区地質調査 |
| 26    | 豊橋愛地周発局        | 安成系地区土質調査      |

昭和38年1月実績表

| 月 日 | 発 注 先        | 工 事 名            |
|-----|--------------|------------------|
| 1-5 | 名古屋鉄道管理局     | 岡崎 - 安城矢作川橋梁地質調査 |
| 7   | 名古屋国税局       | 岡崎税務所庁舎地質調査工事    |
| 10  | 水曾国道工事又務所    | 新吾妻橋土質調査工事       |
| 12  | 中部電力K.K.本店   | 栗山変電所地質調査工事      |
| 14  | 名古屋市水道局      | 牛巻ポンプ場土質調査工事     |
| 16  | 関西電力K.K.栗浜支社 | 水曾地点止水壁試験堅固工事    |
| "   | 運輸省伊勢湾港湾建設部  | 南伊勢土質調査(松坂港)工事   |
| "   | 名古屋市 土木局     | 宅地造成工事           |
| 17  | 名古屋国税局       | 富士宮税務所庁舎地質調査     |
| 21  | 県内陸用地対策部用地課  | 大山地区工業用地土質調査     |
| 12  | 半田愛地周発事務所    | 横須賀樋門ボーリング工事     |



| 指 名 業 者      | 備 考 |
|--------------|-----|
| 興重、川崎、東京、墨土  | 川崎  |
| 菅、興重、土俵      | 土俵  |
| 久保田、中岡、青森、東洋 | 久保田 |

| 指 名 業 者                                 | 備 考 |
|-----------------------------------------|-----|
| 大沢、栗登、近畿                                | 大沢  |
| 応用、大沢、中京                                | 応用  |
| 土俵、応用、京浜                                | 京浜  |
| 中登、市登                                   | 中京  |
| 東京、土俵、中岡、川崎、応用                          | 川崎  |
| 中岡、辰巳組、臼井、東京地                           | 辰巳組 |
| 大沢、臼井、中部、臼井、中岡、東京、川崎、<br>応用、土俵、興重、興重、技研 | 興重港 |
| 墨土、応用、中部、土俵                             | 土俵  |
| 土俵、川崎、応用、東海                             | 土俵  |
| 土俵、川崎、応用                                | 川崎  |
| 三祐、青森、中京                                | 三祐  |



| 月 日 | 発 注 先     | 工 事 名             |
|-----|-----------|-------------------|
| 21  | 名古屋郵政局    | 尾鷲郵便局テストボーリング工事   |
| 22  | 日本住宅公団    | 高蔵寺団地             |
| 23  | 名古屋郵政局    | 横須賀郵便局 テストボーリング工事 |
| 29  | 国鉄岐阜工務局   | 北陸本線金沢車両基地調査工事    |
| 31  | 紀勢国道工事事務所 | 矢の川隧道試錐調査工事       |
| "   | 長野鉄道管理局   | 信濃浅野 - 上今井間橋梁地質調査 |

### 単価改訂合同委員会

当事務所が拡張工事中にて逐付いて審議が出来ないので、八十八等で開催した。

出席者、赤用、川崎、中岡、星士、奥重、 5社

土質さんは所長出張で笠原さんの乗付予定の処笠原さんは他出中、そのまゝ乗付なし、

各研究会で取まとめたものを総合的に審査して全部仕上げる予定の処一部未了の箇所が出来たので、なお、1回集会する事を申会して散会した。



昭和38年2月業績表

| 月 日   | 発 注 先       | 工 事 名                |
|-------|-------------|----------------------|
| 2 - 4 | 愛知県土木部管理課   | 道路改良工事ボーリング委託工事      |
| 1     | 半田土木出張所     | 試験費の内土質調査工事          |
| 4     | 美濃土木出張所     | 新畠土壌地質調査工事           |
| 6     | 市交通局高速鉄道建設部 | 市交通局弘済互助会秘山会館ボーリング工事 |
| 8     | 紀勢国道工事々務所   | 鷲毛重要構造物地質調査          |
| 11    | 名古屋市水道局     | 箕淨水場予定地々質調査          |
| 12    | 名古屋市国税局     | 清水税務所庁舎地質調査          |
| 15    | 国鉄岐阜工務局     | 黒部路線付替調査工事           |
| 14    | 豊田土木出張所     | 橋梁改築工事               |
| 18    | 愛知県水道部      | 旭、久保、大谷、浄水場関係        |
| "     | "           | 上野浄水場土質調査工事          |
| "     | 岡崎土木出張所     | 二級国道名古屋一豊橋線調査        |
| "     | 豊橋愛地開発事務所   | 逢美地区恒久排水調査工事         |
| 20    | 名古屋市土木局     | 熱田跨線橋地質調査工事          |
| 20    | 三重県鳥羽工事々務所  |                      |



事  
事

| 指 | 名   | 業   | 者      | 備    | 考    |     |     |        |    |
|---|-----|-----|--------|------|------|-----|-----|--------|----|
| 事 | 東邦、 | 近衛、 | 土俵、    | 中岡、  | 久保田、 | 応用、 | 大衆  | 大衆     |    |
| 事 | 富士、 | 川崎  | 中部、    | 土俵、  | 応用、  | 大衆、 | 日岡、 | 東京     | 中部 |
|   | 富士、 | 中部、 | 大衆、    | 西濃、  |      |     |     | 西濃     |    |
|   | 中岡、 | 中京、 | 興亜、    |      |      |     |     | 興亜     |    |
|   | 応用、 | 土俵、 | 川崎、    | 中部、  | 大衆、  | 富士、 | 片岡、 | 応用     |    |
|   | 帝國、 | 明治、 | パンフック、 |      |      |     |     |        |    |
|   | 中岡、 | 日岡、 | 土俵、    | 大衆、  | 東京、  |     |     | 中岡     |    |
|   | 応用、 | 土俵、 |        |      |      |     |     | 土俵     |    |
|   | 川崎、 | 日岡、 | 応用、    | 三祐、  | ヤマト、 |     |     | 三祐     |    |
|   | 応用、 | 中岡、 | 興亜、    | 土俵、  | 久保田、 |     |     | 興亜     |    |
|   | 富士、 | 応用、 | 土俵、    | 川崎、  | 三祐、  |     |     | 土俵     |    |
|   | 〃   |     |        |      |      |     |     | 川崎     |    |
|   | 応用、 | 東京、 | 川崎、    | 土俵   |      |     |     | 応用     |    |
|   | 中岡、 | 青葉、 | 久保田、   | 東洋   |      |     |     | 久保田    |    |
|   | 富士、 | 応用、 | 川崎、    | 土俵、  |      |     |     | 富士     |    |
|   | 富士、 | 東邦、 | 日本     | グラウト |      |     |     | 日本グラウト |    |



## 単価改定合同編集会議録

日 時 38-2-15 13時

会 場 協会事務所

出席者 川崎、富士、中尾、応用、土質、映重、(15時出席)

担当者 川崎ボーリングさんの発言で開催された。

### 結 論

今日は一応原稿会議を終り編集会議に切替えた、応用さんが編集の原案を取まとめて来月始めに編集会議を開き之に基いて各位の意見並にアイデアも盛り込んだものを作成、この次の会合で完了して印刷へ回したい。

## 単価表改定編集会議録

日 時 38-3-13 16時

場 所 協会事務所

出席者 応用、川崎、土質、富士(中尾、映重欠席)

前会議よりの協議により応用さんが編集換様を現品について説明あり皆様より発言もあり結論として今一度会議する事として19時散会した。



最高の性能を誇る

カノ式 KR型 試錐機  
V6型 2連式プランジャーポンプ  
カノ式 KH型 ミキサー  
各種 掘さく具 及び 附属品

製 作 販 売

株 式 会 社 カノボーリング

名古屋出張所

TEL ( 57 ) 1905

本 社 東京都渋谷区並木町

TEL 408.1335.9495.

大阪出張所 大阪市北区河内町

TEL.351.8612

清水支店 静岡県清水市宮加三 2 の5

TEL ( 3 ) 0653

昭和38年4月1日 発行

(非売品)

発行責任者 加 藤 七之助

名古屋市中区西新町西新ビル

中部日本地質調査業協会